

調査報告

留学生と地域の人々との盆踊りを通した国際交流と地域の国際化 — アンケート調査から —

福岡 昌子

International Exchange and Regional Internationalization through Bon Festival Dance Involving International Students and Local People — Conclusions from a Questionnaire Survey —

FUKUOKA Masako

〈Abstract〉

At Mie University, as the number of international students from overseas partner universities is increasing, international students have been trying to have international exchanges with local people through Bon Odori. Unfortunately, the event has been canceled due to the Corona disaster, but it is a summer project of the International Exchange Center, which has been held for nearly 10 years since 2009. Up to now, 50 international students have participated in the Bon Odori party held at the special temple at the knee of Mie University every year.

This paper reports a questionnaire survey to international students and local people in 2018. International students wore yukata and participated in the Bon Odori dance, and enjoyed the cross-cultural experience from the bottom of their hearts by dancing with the local people. On the other hand, it turned out that the local people were delighted and welcomed the fact that Bon Odori, whose number of participants was decreasing year by year, became lively and internationally. Many international students and local people were able to exchange internationally through Bon Odori, and many requested that they continue in the future. While multicultural coexistence and SDGS are being called for, there are a wide variety of ways in which international students can interact with the local community, but we would like to connect them to the future in a way that is beneficial to both parties and the university.

キーワード：留学生、地域、国際交流、盆踊り、アンケート調査、地域の国際化

1. はじめに

三重大学国際交流センター（1997年設立）は、2005年の法人化以降、国際交流・国際教育・国際サービスの3部門に改編された。国際教育部門は、2019年に留学生30万人計画^①が達成された現在まで、協定校や受入れ留学生数が倍増していく中で、日本語・日本文化教育や異文化理解・異文化間コミュニケーション教育を担ってきた。その間、在住外国人を対象としたサバイバル日本語教室はじめ、文化庁「生活者としての外国人」支援助

成によるボランティア日本語講師養成講座、ブラジル人子弟のためのボランティア日本語講座など、多くの事業を実施してきた。

本稿では、留学生と地域の人々との盆踊り交流会を通じた国際交流事業について紹介する。現在は残念ながらコロナ禍により開催が中止されているが⁽²⁾、2009 年より 10 年近く継続実施されてきた国際交流センターの夏の事業である。三重大学のお膝元にある栗真町屋町にある専称寺⁽³⁾で行われる地元の盆踊り交流会に、毎年 50 名前後の留学生が参加してきた。事業の目的としては、次項で述べるように、①日本古来の盆踊りという日本文化を知る、②留学生の異文化体験への挑戦、③浴衣を着てみる、④留学生と地域の人々との国際交流の 4 点である。

留学生の学外での活動は様々である。留学期間中に積極的に学外に出て日本人と積極的に交流を持とうとする者、逆に留学生宿舎と大学との往復だけで留学生生活を終えてしまう者、多種多様である。留学生によっては学内の日本人学生との交流さえも構築することが難しく、学外の人々との交流は全くないまま帰国するという留学生が大半を占める。盆踊りという日本の夏に行われる異文化体験をぜひ留学生に体験してもらいたいということでこの事業が開始された。

2018 年に地元の方にアンケート調査し、地元の方々は留学生の参加をどのように思っているか、一方留学生は参加してどう思ったのか、アンケートを取る機会を得た。本稿では、その結果について報告するとともに、今後の留学生と地域の人々との国際交流の在り方、地域の国際化について考えてみたい。

2. 事業の背景

2.1 日本古来の盆踊りという日本文化を知る

津市は旧盆の風習が残る街である。三重大学が位置する栗真町屋町は津市の中でも大きな盆踊りを毎年開催する地区である。このお盆という先祖祭祀の風習は、アジア地域の国々でも行われており、アジアからの留学生には共感できるものがある。一方、ヨーロッパの留学生にとっては珍しい異文化体験となるが、留学生の中には日本文化の授業で、盆踊りを学んだという留学生もいて、実際に日本の盆踊りを体験できて喜ぶ者も多い。毎年恒例となったこの行事は、留学生にとっては日本古来の日本文化や風習を知るいい機会となっていた。

2.2 留学生の異文化体験への挑戦

盆踊りは、日本の祭りでは珍しく参加型の祭りである。青森のねぶた祭は他地域からの人々を受け入れてくれる代表的な参加型の祭りだと言えるが、そもそも外国人観光客が飛

び入りで参加できる祭りは少ない。日本の祭りの多くは地域の人々が地域の信仰を祀るものが大半で、観光客はそれを見て楽しむという祭りが多いのではないだろうか。その中で、日本の地方に残る盆踊りは参加型の祭りだと言える。栗真町屋町の地域の人々は、そんな留学生を毎年快く受け入れてくれている。

2.3 日本の着物：浴衣を着てみる

国際交流センターには、現在寄付などにより男性の浴衣と帯セットが約10着、女性の浴衣と帯セットが約25着ある。津市は例年7月末には花火大会があるので、女子留学生は密かに浴衣を購入し、浴衣を着て出かける花火大会や盆踊りを楽しみにしているようだ。男子留学生は当初は浴衣を着ることに抵抗があったようだが、近年は浴衣を着てみたいという男子留学生も増えている。留学生に着物を着せる役は毎年教員であるが、地元のボランティアの方々が着付けの先生になって留学生に着方を教えてくれる時もあった。留学生たちは、貸し出し用の浴衣から好きな柄の浴衣を選び、夏の暑い中汗だくになって浴衣に着替え、日が沈む頃に国際交流センターのある建物の玄関に集合する。下駄を用意する者もいて、履きなれない下駄をはいて盆踊り会場となる専称寺に向かう。

2.4 留学生と地域の人々との国際交流

毎年10月末に大学祭があり、地元の方々が楽しみにして本学を訪れる。海が近い栗真地区には高い建物は少なく、地震が起きた際は三重大学の高い校舎が避難場所だと語る人々も多い。また、この地区には賃貸アパートも数多くあり三重大学の学生が居住している。竜神祭や除夜の鐘撞など地元の行事に関心のある学生は個々に参加していたようだ。ある日アパートに住む留学生が盆踊りのチラシが郵便受けに入っていて、これはどんなお祭りなのか聞かれたことから、夏に盆踊りをやっていることを知り、留学生を連れて行こうということになったと記憶している。留学生が盆踊りに参加する度に、自治会の方々は留学生のために飲料のチケットや団扇を準備してくださっていた。

留学生と栗真町屋町の人々との国際交流：
盆踊り大会に参加してみよう！
(栗真町屋町連合自治会 盆踊り大会)

- ・2012年8月4日(土)19:30～21:00
- ・三重大学総合研究棟Ⅱ玄関ホール 集合19:00 出発
- ・場所：専称寺(せんしょうじ) (三重大学から歩いて約15分)
- ・*夜店(よみせ)も 出ます。くじもあります。

・ゆかたを着たい人：国際交流センターへ(要予約)
・女性ゆかた24着、男性ゆかた5着、子供ゆかた4着(先着順)
・*ゆかたに、着替えたい人：着せてあげます。
8月4日(土)18:00～
国際交流センター会議室で着替えます。

国際交流センター・福岡

図1. 留学生へ盆踊り参加への案内(2012年)



図2. 留学生に着付けをする教員達(2013年)

3. 地域の方々・留学生へのアンケート調査から見えてくるもの

3.1 地域の方々のアンケート結果から

10 年近く留学生が栗真町屋町の盆踊りに参加させていただいてきたが、地元の方はどのような感想をお持ちなのか 2018 年アンケート調査を実施した。本項では 68 名のアンケート結果をまとめた。

① アンケートに回答して下さった方の年齢

盆踊りの会場でアンケートにご協力いただいたのは 50 代から 80 代の方々だった。盆踊りは櫓 (やぐら) を立て、かき氷などの屋台も出しており、大変な準備の要る作業であると思われる。盆踊りの練習も、事前に婦人会を中心に行われている。

② 留学生が盆踊りに参加しているのをご存知ですか。

回答者は、留学生が毎年盆踊りに参加していることをご存知だった (89%)。近年では、自治会の方が開催チラシを国際交流センターまで持参してくださるようになっていた。

③ 留学生が盆踊りに参加して変わりましたか？

留学生が盆踊りに参加するようになって、華やかで活気が出た (32%)、国際的になった (26%) と、歓迎されている方が多かった。

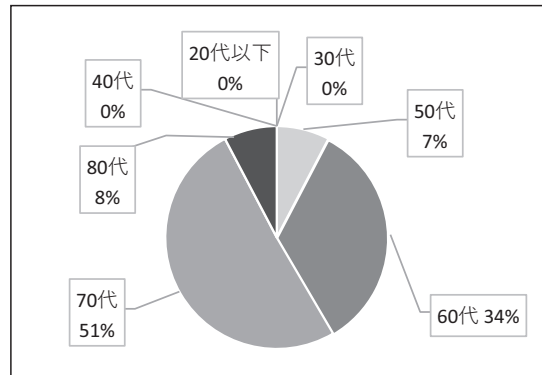


図 3. アンケートに回答された方の年代

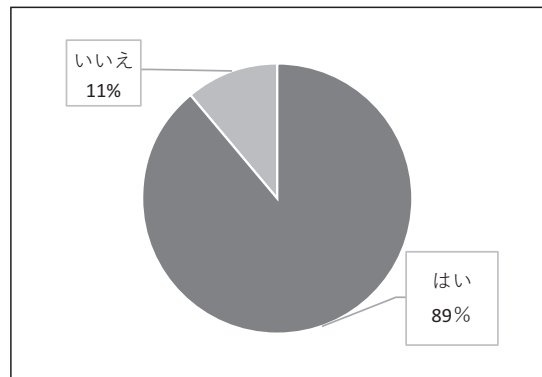


図 4. 留学生が盆踊りに参加しているのをご存知ですか。

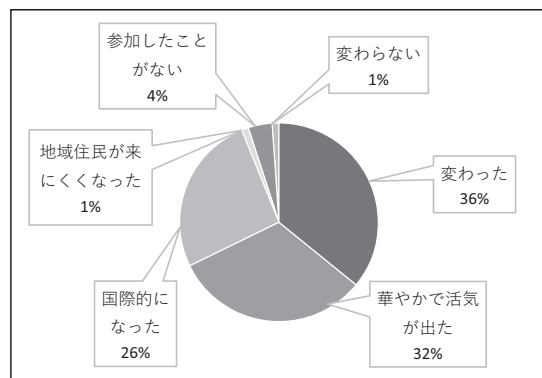


図 5. 留学生が盆踊りに参加して変わりましたか？

④ 留学生が盆踊りに参加するのを、どう思いますか。

留学生が毎年盆踊りに参加することを、どう思っているか率直にお尋ねしてみた。お盆という先祖供養の儀式でもあるので、迷惑ではないかと思っていたが、今後も続けてほしいという多くのご感想を得た（89%）。

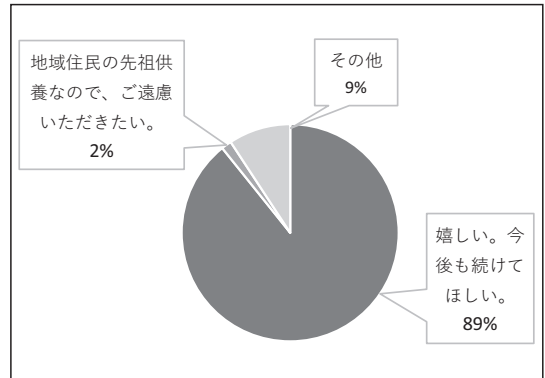


図6. 留学生が盆踊りに参加するのを、どう思いますか？

⑤ 三重大学が地域と連携で行っている国際交流の行事をご存知ですか。

三重大学が国際交流センター以外に、地元の地域と連携で行っている国際交流の行事があるか尋ねた。もしあるとすると、秋の大学祭くらいしか思い当たらなかった。やはり、68%の方が知らないという回答だった。

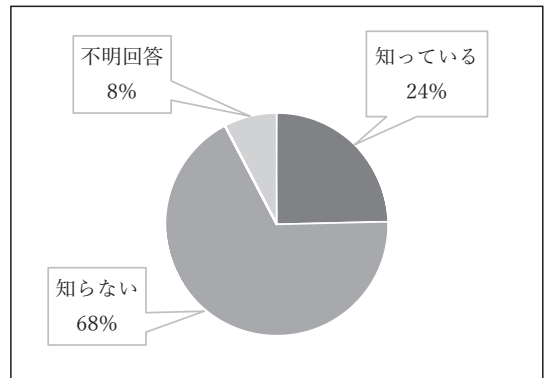


図7. 三重大学が地域と連携で行っている国際交流の行事をご存知ですか？

⑥ 今後三重大学と交流を希望する国際交流イベントはありますか。

今後三重大学と交流を希望する国際交流イベントは、具体的にどんなイベントがあるとよいか伺った。防災に関する交流イベントを希望する回答もあった（26%）。先にも述べたように、白塚地区は津市指定の避難ビルが点在するが、専称寺周辺は高いビルも少ないため、地震が起きた際は、真っ先に三重大学に行くと呼ぶ声をよく耳にしていた。確かに、防災等の避難訓練など、地域と連携した行事を希望する声もあり、もっと防災に関する交流イベントがあるとよいのではないだろうか。

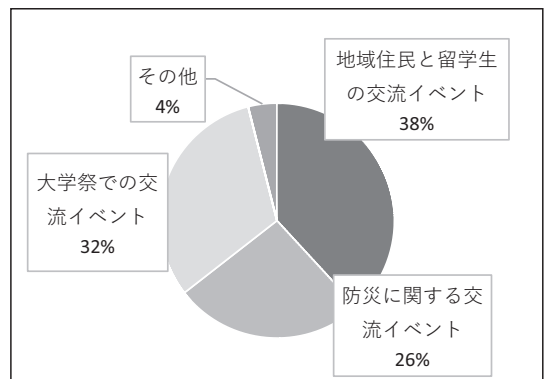


図8. 今後三重大学と交流を希望する国際交流イベント

その他、大学祭における地域住民との交流イベント（32%）や留学生との交流イベント（38%）を期待する声もあった。

⑦ その他自由記述

その他自由記述では、毎年多くの留学生に参加していただき、地域が活気づくので嬉しいと、今後も参加継続を望む声が多かった。また、具体的に龍踊りという地元祭りへの参加や荒廃農地の整備の支援、津市清掃 day への参加を望む声、小学生や高齢者との交流活動を期待する声、自国へ帰って日本の思い出話になれば嬉しいという声も聞かれた。

3.2 留学生のアンケート結果から

留学生のアンケートは盆踊り参加後に実施したため、残念ながら 8 名からしか回収できなかったが、ほぼ例年通りの声が聞こえていた。

① 専称寺の盆踊りの感想

盆踊りの感想としては、「楽しかった。機会があったら、また参加したい」(100%) など、留学生は盆踊りを満喫していたようだった。

② 盆踊りのどんな点がよかったですか。

「盆踊りが踊れてよかった」(26%) や「日本の夏の文化の風習がわかってよかった」(26%) など、当初の目的である日本の地域ならではの夏の文化や風習を体験し、理解してもらうことができた。また、当年度はボランティアによる浴衣の着付け教室があり、1 人で浴衣を着ることができたこともよかった。大学の貸出の浴衣も選べるくらいの枚数があるので、女子留学生にとっては思い思いの浴衣を着るのも楽しみの一つようだ。

③ 後輩の留学生にも盆踊り体験を勧めますか？

「後輩の留学生も参加できたら、きっと楽しいと思う」(60%)。留学生は帰国後、

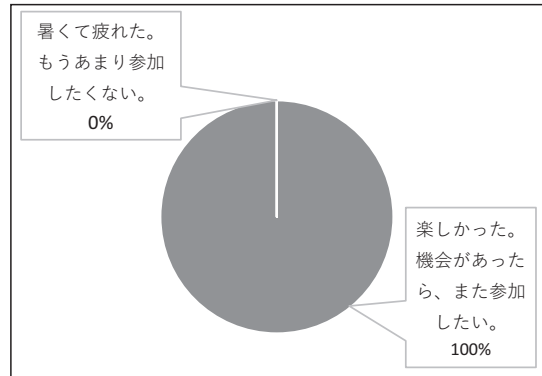


図 9. 専称寺の盆踊りはいかがでしたか？

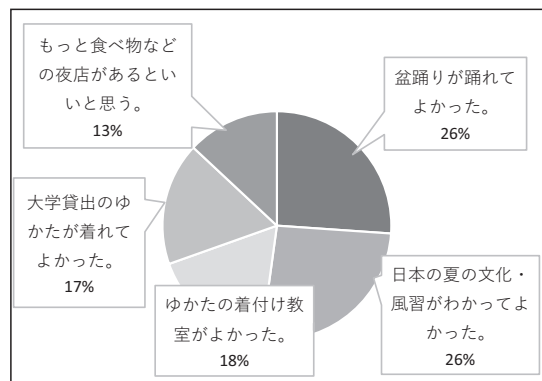


図 10. 盆踊りのどんな点がよかったですか？

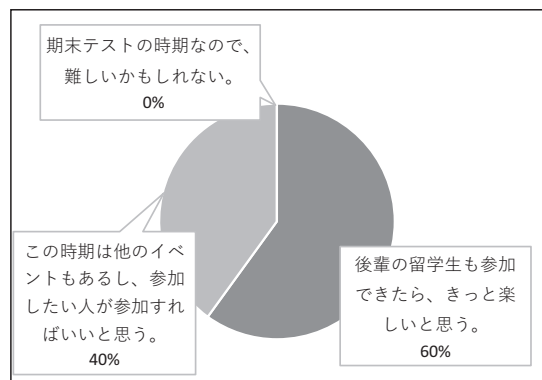


図 11. 後輩の留学生にも盆踊りを勧めますか？

留学験について後輩に話す機会が多いので、ぜひ盆踊り体験も勧めてほしいと思う。また、回答にもあるように、8月の第1週の土曜日は近隣の市町村のイベントも多いせい、他のイベントにも興味のある学生も多く、近年欧米の男子学生の参加が減少傾向にある。

④ 今後も盆踊りなどを通して、地域の方々と交流を続けたいですか？

回答者全員が「今後も盆踊りなどを通して、地域の方々と交流を続けたい」と思っていた（100%）。毎年、盆踊りの会場で、留学生が地域の方々と話す光景も多く見られ、地域の方々と交流できるいい機会となっている。

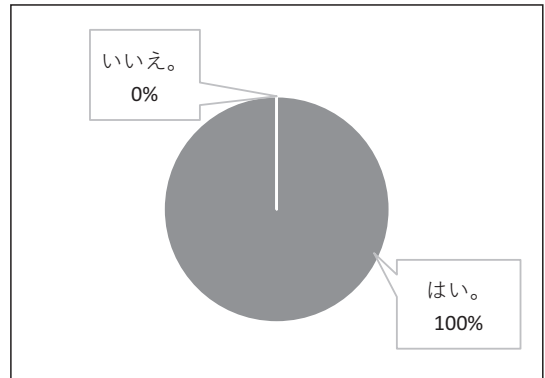


図12. 今後も盆踊りなどを通して、地域の方々と交流を続けたいですか。

⑤ 今後どんな国際交流やイベントを実施したら、地域の方々が参加しやすいと思いますか。

留学生や地域の方々が共に参加しやすい国際交流やイベントはどんなイベントか、参加方法についても聞きたいと思っていたが、あまりいいアイデアはなさそうである。全員が「盆踊りのような地域住民と留学生の交流イベント」（100%）を挙げていた。栗真町屋町の方々にお聞きすると、生物資源学部が地元の酒造店と協働で酒作りを行っていることをご存知だったが、防災や大学祭に関わる交流イベントは実施していない状況が理解できた。

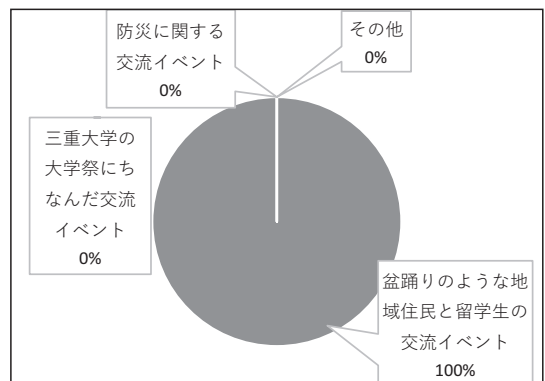


図13. 今後どんな国際交流やイベントを実施したら、地域の方々が参加しやすいと思いますか？

⑦ その他自由記述

「とても暑い日だったけど、浴衣を着ることができ、日本人の方と一緒に踊れて楽しかった」、「盆踊りはとても楽しかった」、「盆踊りは思ったより簡単でした。後輩たちは絶対に楽しいと思う」という感想を得ることができた。

4. 盆踊りの交流に参加した留学生の寄稿、盆踊りの縁をくださった元自治会長さんのお話

実際に盆踊りの国際交流に参加して留学生はどう思ったのか、3人の留学生と栗真町屋町の元自治会長の奥山憲次さんのお話を掲載する。4.1 は 2012 年度工学部特別聴講学生のチョウ・クエンさん（中国出身で日本在住）、4.2 は 2015 年度国際交流センター日本語日本文化研修留学生のアピンヤー・小濱（サエングサワング）さん（タイ出身で日本在住）、2017 年度日本語日本文化研修留学生のカリナ・キム（オレーナ）さん（ウクライナ出身で韓国在住）である。チョウさんは盆踊り体験をまとめ、留学生日本語弁論三重県大会でスピーチした。その原稿を本人の許諾をいただき掲載した。アピンヤーさんとカリナさんは本稿へ寄稿してくれた。奥山憲次さんは、本学の留学生が盆踊りに参加するきっかけを作ってくくださった方で、快く寄稿してくくださった。

4.1 2012 年度工学部交換留学生のチョウ・クエン：盆踊り体験に基づく弁論大会の原稿「私の日本留学生活－踊りましょう－」

皆さんは踊ったことがありますか？踊る時はどういう気持ちですか？私はリラックスでき、ストレスを発散することができます。私は踊る時、元気になります。そして心も体も軽く美しくなると思うし、そして人生が豊かになると思います。世界中が素晴らしく感じられます。だから、私は踊りが大好きです。

私は日本の盆踊りのことを聞きました。とっても行きたくなりました。やっと 8 月 4 日が来て、栗真町屋町の盆踊り大会に参加しました。浴衣を着て、参道の提灯を見て、砂利道を通って寺に入りました。盆踊りの音楽の音がだんだん大きくなり、お祭りの雰囲気が盛り上がっていました。急に音楽が止まって、マイクから「今から、踊りましょう」という放送と同時に元気のいい太鼓の音が聞こえてきました。「掘って、掘って、また掘って、かついで、かついで、ながめて、ながめて、おして、おして、開いて、ちょちゃんがちゃん」。みんな太鼓や音楽に合わせて、輪の中に入り、輪になって踊っていました。みんな笑顔で踊っているのが見えました。あれ、不思議なことが起きました。あまり踊らない友達もこんな楽しい雰囲気では抵抗なく、参加していました。それは踊りの力ですね。私たちは櫓の上で踊るチャンスがあって、楽しかったです。楽しく踊って、昼間の疲れなど消えて、体がかかるくなり、幸せを感じました。



図 14. 盆踊りの風景 (2012)

やぐらの上で踊っている時、昔のダンスのパフォーマンスを思い出しました。私は言葉で表現できない気持ちになって、美しい草原の故郷に帰ったかのように思いました。故郷の広い草原にも輪になって踊るダンスがあります。草原へ旅行に行ったら、焚き火パーティーが一つが一番心のこもった迎え方です。最初遠方からのゲストは松明を持って、火をかけます。

それから、色鮮やかな民族衣装に身を包んだ少女、少年とゲスト、キャンプファイヤーの歌や踊り、周りのゲストの踊りが続きます。「十五の月亮、升上了天空哟、为什么旁边、没有云彩」馬頭琴を引き、モンゴル歌を歌ったり、草原ならではの踊りを踊ったりして、みんなの顔は夜空とともにたき火に映されて、心が癒されていきます。日本と内モンゴルの間に、意外にも同じダンスの形態があることが分かりました。まだ世界中のたくさん国に輪になるダンスがあります。ダンスはすばらしいですね。

次に、ダンスの起源を比べてみました。盆踊りは日本の昔の人が労働した時、踊りを始めました。労働した後に踊ったら、疲れはきっと消えたことでしょう。盆踊りの時、私はこういう楽しい労働したときの気持ちと同じだと思いました。モンゴルの輪になって踊るダンスは、伝統的な祝いの形式です。昔から、内モンゴルの人々は火に特別な敬意を持ちながら、動物や鳥を捕まえた後、多くの食べ物を持ち帰って、それらを火に焼くという習慣があります。ハンターの皆さんは手を繋いで、たき火を回って、嬉しい気持ちを表すために踊る踊りは、今までずっと続けられています。この二つダンスは昔の人の生活から、楽しみのために生まれて来ました。

しかし、不思議なことがあります。非常に遠く離れた日本と中国が共通した踊りがあるのでしょうか。中国の踊りも、日本の踊りも、楽しい気持ちを表すために存在しているものです。しかし、踊りによって、別々な社会背景と規律がありそうです。人々は踊りを通じて、自分の心の中の思い、そして、生命や自然への尊敬の気持ちを表します。踊る人々は民族文化に自信を持ち、自分たち民族の誇りを感じます。ですから、踊る人は、命の意義を持って楽しさをみんなに伝えることができます。

ダンスをこのように考えると、ダンスは世界の共通言語として、全世界の絆になります。人々は踊りを通じて、お互いに理解し、コミュニケーションが出来るようになります。世界の人々が、幸せな未来のために、楽しさと嬉しさを分かち合って踊りましょう！最後に私



図 15. 2015 年の盆踊り交流会の参加者の記念撮影

が経験した盆踊りを披露して、私の発表を終わらせていただきます。「掘って、掘って、また掘って、かついで、かついで、ながめて、ながめて、おして、おして、開いて、ちょちょんがちょん。月が出た、出た、月が出た (ヨイヨイ)、三池炭坑の上に出た」。



4.2 2015 年度日本語日本文化研修生：アピンチャー・小濱 (サエングサワング) さん (タイ)

2015 年三重大学の盆踊りを参加したタイ人の元留学生です。当時の思い出は、とても楽しい経験でした。夕方になり皆で浴衣に着替えました。日本の浴衣や着物に憧れていました私はとてもワクワクしていました。ずっといつか浴衣や着物を着て外で歩いてみたかったです。着替えが終わりましたら、皆で国際交流センターの前で集合し、列で大学の近くのお寺まで歩いて行きました。当時は夏だったので、とても暑かったですが、友達とお喋りながら歩いているので、楽しさは暑さに負けなかったです。

お寺に着いたら、太鼓の音でとても盛り上がる気持ちになりました。太鼓のリズムに合わせて皆が同じ踊り方していました。私は初めてなので、中々追いついていけなかったのですが、楽しく踊れました。とても楽しい踊りだったです。お寺内では、屋台もたくさんありました。踊り終わったら、食べ物を買ってたくさん食べました。お祭りが終わりましたら、皆で一緒に寮まで歩いて帰りました。とても素敵なお祭りでした。

タイ国にも日本の盆踊りと似たようなお祭りが 있습니다。タイでは「ラムウォン」と言います。「ラム」は踊りという意味で、「ウォン」はサークルという意味です。「ラムウォン」祭りは、年何回か行われるお祭りです。日本の盆踊りと同じようにお寺でやることが多いです。皆で昔の衣装を着て、サークルで同じ踊り方で踊ります。リズムは日本の盆踊りより早いです。とても盛り上がる踊り方です。



皆さんも是非夏の盆踊り参加してみてください。とても良い思い出になるとと思います。

図 17. 専称寺の門の前で (右端がアピンチャーさん)

4.3 2017 年度日本語日本文化研修生：カリナ・キム (オレーナ) (ウクライナ)

今から 5 年前、2017 年に私は日研生として三重大学に来ました。三重大学は多文化交

流会、日本文化体験レッスンなど様々なイベントを開催しているため、とても楽しい留学生生活を過ごすことができました。特に盆踊りのお祭りの日が今でも記憶の中に華やかに残っています。きれいな浴衣を着させてもらい、留学生の仲間たちと日本人の学生とともに、町屋盆踊りのお祭りに参加しました。美味しい物を食べたり、金魚すくいにチャレンジしたりもしましたが、私にとって一番楽しかったのはやはりみんなで盆踊りを踊ることでした。

私は母国ウクライナにいたときから日本の文化に興味を持っていて、ふるさとで行われる日本文化イベントによく参加しました。あるイベントで盆踊りクラブのメンバーに声をかけた結果、賛同を受け日本文化センターで盆踊りの練習をやり始めました。しばらくしたら、私もイベントで踊ったり盆踊りを教えたりしました。ですから、津市でお祭りの時には、知っている曲が流されたらたん、勇気を出して、真ん中にある櫓に上がり踊りました。地元で何回も練習してきた踊りを日本で踊っているなんて、不思議な気持ちで胸がいっぱいでした。踊り終わってからたくさんの方々になぜ上手に踊れるかと聞かれ、面白い会話もできました。

私にとって留学の一年間は人生の中で一番楽しくて幸せな時期でした。色々な体験をさせていただいたおかげで、より自然な日本語を学んだ上に、日本の歴史や文化について知識を深めました。留学の時にしか得ない経験が山ほどありますので、留学生は恐れずに新しいことに挑んでみてほしいと思います。



図 18. 櫓の上の盆踊り体験と金魚すくいの体験（カリナさん）

4.4 栗真町屋町元自治会長 奥山憲次さん

栗真町屋町主催の盆踊り大会は30年前から始めた伝統ある祭りで、この地区の親睦を図る行事の一つだった。当時は300人くらいの方が盆踊りに集まっていたが、最近では少子高齢化もあり、参加者が徐々に少なくなっていた。そんなときに、国際交流センターの留学生が浴衣を着て盆踊りに参加してくれるようになり、盆踊りが大変活気づくようになった。いつもは、ただ通りを通行している大学生の姿だけを見ていたが、このように大学生

と一緒に輪の中に入って踊ってくれるとは夢にも思わなかった。みんないろいろな国から来ていて、喜んで参加してくれる姿を見て嬉しかった。外国の方は気持ちが明るいいし、こちらも気持ちが若返るようだった。この 2 年はコロナで中止になったが、このまま盆踊りを通じて交流を継続して行ってほしいと思っている。

留学生が盆踊りに参加してくれるようになった同じ時期に、元学長が定期的に三重大学で地元の者達との懇親会を開いてくれるようになった。こんなことは珍しく親しみを感じた。近年では、秋の学園祭も楽しみの一つであるが、9 月の敬老会に、大学のサークルの方が音楽を演奏しに公民館に来てくれたりしている。また、夏の龍踊り行事では、神輿の担ぎ手として大学生が参加してくれたり、特定非営利活動法人 (NPO) 町屋百人衆が主催する 3 月に一度の町屋海岸の清掃活動にも、大学生が大勢参加してくれたりして、大変ありがたく思っている。現在はコロナで休止中でもあるが、ぜひこれらも継続して行ってほしいと思う。

最後に、今年専称寺の鐘撞堂の改築があった。この地区には冬の正月行事として、近くの神社の千王神社にお参りをし、その後専称寺で鐘をつくという風習がある。年越しそばや餅を出したりしている。留学生にはこの冬の風習にも一度足を運んでほしいと思う。

三重大学のお膝元にある栗真町屋地区と三重大学は、今まで良好な関係を維持してきたが、持ちつ持たれつということで、今後ともよろしくお願い致します。

5. 留学生と地域の人々との国際交流と地域の国際化

本稿では 2018 年に留学生および地域の方々にアンケート調査し、その結果について報告した。留学生は盆踊り交流会で浴衣を着て参加し、地域の方々と一緒に踊ることで、異文化体験を心から楽しんでいた。一方、地域の方々にとっても、年々参加者が減少していた盆踊りが国際豊かに活気づいたことに、喜びを感じ歓迎していたことがわかった。留学生も地域の方々も盆踊りを通して国際交流ができ、今後も継続してほしいという声が多かった。

4 で述べたように、チョウ・クエンさんは、故郷モンゴルのお祭りへの思いを重ね合わせて、盆踊り体験を堂々とスピーチしたばかりでなく、弁論大会で踊りも披露した。その原稿はイキイキと当日の盆踊りの様子が描かれていた。アピンヤーさんの寄稿も、当日の盆踊りへ向かう留学生達のワクワク感や留学生のはしゃいだ様子を伝えてくれていた。カリナさんの寄稿は、ウクライナにいたときから盆踊りのことを知り、踊り方を練習していたという驚く内容であった。回顧すると、これまで櫓の上で踊ったのは、チョウ・クエンさんとカリナさん 2 人だった。奥山元自治会長さんには、栗真町屋町の盆踊りへのお誘い

やお世話を受けただけではなく、後継者にも本事業を繋げていただき感謝でいっぱいである。

盆踊りを通した国際交流は、年々留学生と地域の人々との接点として意義あるものになっていった。留学生が浴衣を着て日本独特の盆歌に合わせ、見様見真似で輪の中で踊りに参加していく過程で、その祭りへの期待と高揚感は、世界共通のものであることがわかった。現在では、盆踊りという日本文化や風習の異文化体験が三重大学留学の思い出の一つとなって、後輩達に語り継がれている。この事業が10年も続いたのは栗真町屋地区の自治会のご協力があるものである。

一方、地元の国際交流の担い手も高齢化が進んでいることは否めない。地方での多文化共生の意識作りがようやく芽生えたかと思うと、理解・支援して下さる方々の高齢化という次の課題がある。本学がこの栗真町屋町に存在し、三重大学が国際化を目指し留学生の受入れや世界の協定校との交流事業を継続していく以上、多文化共生の意識や地域の人々と共に、次世代へ繋げる異文化理解や国際交流の努力を、今後も継続を図る必要があると思われる。

1980年代以降、三重県でも外国籍住民が増加し、定住化の支援や日本語教室の拡充など多文化共生社会の構築に向け、個人レベルから各自治体独自の交流活動へと積極的に行われてきた。今後は海外からグローバル人材として日本への移住者が増え、ますます多様な背景を持つ人々のコミュニティが形成されていくであろう。そんな地域の国際化の中で、自然な形でコミュニケーションが行われ、地域の方々の和が拡充されていくためにも、本事業の盆踊りのような地域に根付く文化や風習に基づく交流の場が、次世代の地域の国際化を形成する精神的礎となっていくのではないだろうか。

この津は、伊勢神宮へのおかげ参りという歴史と文化が育った土壌が残る地である。伊勢の地を訪れた人々が、日本各地ではなく今度は世界各地へこの地の文化が拡散されていく。留学生は時代が違っても客人は客人である。日本文化の良さをその地で発信し、客人が各地で三重や日本の架け橋となって活躍することを祈ってやまない。多文化共生社会やSDGS⁽⁴⁾が叫ばれる中で、留学生と地域との国際交流の在り方は多種多様であるが、双方にプラスになる形で将来につなげていきたい。

謝辞：この 10 年留学生を快く迎えてくださった栗真町屋地区の皆さん、栗真町屋町元自治会長の奥山憲次さん、留学生を代表して寄稿してくださったチョウ・クエンさんやアビンヤンさんやカリナさん、毎年盛夏に留学生の着付けにご協力くださった花見棋子元教授のご協力に感謝申し上げます。

付記：カリナさんの故郷ウクライナの人々の平和を心よりお祈り致します。

注

1. 「留学生 30 万人計画」とは、日本が世界に対してより開かれた国へと発展する「グローバル戦略」の一環として、2020 年までに日本国内の外国人留学生を 30 万人に増やすことを目標とした文科省の施策である。2019 年に留学生数は 31 万人に達した。
2. 2020、2021 年度は、コロナ禍により三重大学の海外協定校より交換留学生の受入れはなかった。
3. 真宗大谷派、三重県津市栗真町屋町 872
4. SDGs (Sustainable Development Goals)、JAPAN SDGs Action Platform 外務省 (mofa.go.jp) <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html> (2021.12.19)

参考文献

- 江原宏 (2012) 「国際交流・国際協力の拡大と活性化に向けた三重大学における人材養成の取り組み」『Journal of International Cooperation for Agricultural Development 2012』12、pp.58-64.
- 奥村圭子・伊藤亜希子・伊藤孝恵 (2010) 「地域の国際化がもたらす可能性—地域での異文化間交流—」『留学生センター紀要』6、pp.1-14.
- 蒲池勢至 (2012) 『お盆のはなし』法蔵館
- 国際交流センターの活動 (2009~2019) 『三重大学国際交流センター年報』三重大学国際交流センター
- 関沢まゆみ・国立歴史民俗博物館 (2015) 『盆行事と葬送墓制』吉川弘文館